

にじの丘だより

第 84 号

令和 8 年 10 月 7 日発行

瀬戸市立にじの丘小学校

瀬戸市立にじの丘中学校

読書の秋がやってきました！

にじの丘小学校 校長 此下 明雄

にじの丘自慢のライブラリー（図書エリア）には、26,000 冊以上の本があります。土日には、地域図書館として開放されていることもあり、小さな子どもが楽しむ絵本から大人が読む小説まで、幅広いジャンルの本が驚くほど揃っています。

読書の秋というように、秋は気候も涼しくなり、昼夜問わず読書をしやすい季節です。お気に入りの本を見つけて、たくさんの本に出会えるとよいと思います。

ベネッセ教育総合研究所の「子どもの読書行動の実態－調査結果からわかること－」（2023）によると、次のようなことが報告されています。

- 蔵書が多い家庭の子どもほど読書時間が長い
- 自分で学習したり文化的活動に取り組んだりしている保護者の子どもほど読書時間が長い
- 本を読む大切さを伝えている保護者の子どもほど読書時間が長い
- 幼少期に読み聞かせを多く受けた子どもほど、その後の読書時間も長い

特に調査のまとめでは、

「家庭の文化的な背景が子どもの読書行動に影響しているため、保護者自身も家庭の中で読書に親しんだり、子どもに読書を勧めたりすることが重要」

と書かれています。スマートフォンやAIの普及により、本を手にする機会が以前より減っていると感じている方も多いと思いますが、このあたりで気持ちを切り替えて、本を手にとってみてはどうでしょう？

私自身は、毎週1冊のペースで読書を続けています。最近は警察小説にはまり、同じ著者のシリーズを読み進めています。警察組織の仕組みや、リーダーシップ、交渉術など、自分とは異なる職業の世界に触れることで、新たな発見があります。物語の展開もハラハラドキドキで、ペースが上がると最後まで一気に読みなんてこともあります。

脳の中で人の心を豊かにする働きを担う前頭前野は、10代の頃に大きく発達すると言われています。その前頭前野の働きを育むうえで、読書は大変有効であると言われています。物語に心を動かされたり、新しい知識に触れたりする経験は、子どもたちの想像力や思考力を豊かにしてくれます。豊かな人生を送るためにも、この秋は親子でスマートフォンを少し置いて、本と向き合う時間を大切にしてみてくださいはいかがでしょうか。



にじの丘学園の様子

OCTOBER NEWS LETTER 10月

rainbow

9月の行事

授業参観



多くの方に参観いただき、子どもたちが生き生きと活動する様子をご覧いただくことができました。今後もわかりやすい授業を目指していきます。

避難訓練



本年度は、縦割り班での活動中に地震が発生した場合を想定して訓練を行いました。

通常とは異なる場所や場面で被災しても、一人一人が自分の命を守る行動がとれるように訓練を行っています。

アジア競技大会観戦



中学校の生徒がアジア競技大会のバレーボール競技を見学しました。トップレベルの選手のプレイを間近で見られるよい機会となりました。

マナー講座



職場体験を控える8年生が、講師の方をお招きし、お辞儀やあいさつ、言葉遣いといった社会人として必要なマナーについて学びました。

にじっこタイム



6年生が活動を企画し、縦割り班で交流しました。活動では高学年の児童が低学年の児童を思いやり協力する姿が見られました。相手の立場を考え、思いやる気持ちが育まれています。

福祉実践教室



4年生が点字や車いすといった体験を通して、ハンデキャップをもつ方の気持ちへの理解を深めたり、自分事として福祉について考えたりすることができました。

今年は雨の日が続くことが多いものの、昨年と比べると過ごしやすい日が増え、子どもたちにとっても活動しやすい季節となりました。

落ち着いた環境の中で、学習や学校行事にも意欲的に取り組んでいます。

あいさつ
びょうご
ぼしゅう

PTAからのお知らせ

PTAでは、「おはよう」から広がる地域の輪を目標に、地域の方からあいさつに関する標語を募集します。二次元コードからぜひご応募ください。
応募期間：10月13日（火）～10月23日（金）

ご応募はこちらの二次元コードから↓

